

男女共同参画

# 情報紙

創刊号

平成18年

9月



## 中学生の職場体験学習

香海中学校の男子生徒、女子生徒が香良洲町の放課後児童クラブ  
なかよしキッズで ともに保育を体験しました。



## 主な内容

- ・男女共同参画社会の実現に向けて
- ・津市の主な男女共同参画事業
- ・男女共同参画セミナー・れぽーと
- ・自分発見！中学生・地域ふれあい事業
- ・ふらりライブラリー

津市

この情報紙をみなさんと育ててください。年2回の発行です。

この情報紙は、男女共同参画の具体的な取り組みや各活動団体の紹介等により、意識啓発・情報交換を図り、地域に密着した情報を提供するとともに、公募による編集スタッフのみなさんには、企画力やエンパワメントをつけていただくことを目的として、年2回発行します。

みなさんの情報交換の場・交流の場として、この情報紙を活用してください。

「こんな情報をみなさんに知らせたい」「こんな情報が知りたい」と思ったとき手にとって見たくなる、そんな情報紙をめざしています。

**情報紙の名前を募集します!**

この情報紙には、まだ名前がありません。

市民のみなさんから公募した編集スタッフのみなさんと津市とで作っていく情報紙、市と市民のみなさんをつなぐ情報紙、男女共同参画社会の実現に向かって取り組む、みなさんの思いや願いのこもった、親しみやすい名前を考えてください。

応募には、名前の由来、意味などの説明もお忘れなく。

**応募期限** 平成18年10月31日

応募は、8ページ下段の津市市民部男女共同参画室までお寄せください。

**編集スタッフを募集します!**

みなさんと情報紙を作り、育てていくため、ボランティアで、企画からレイアウト・校正まで携わっていただける方を募集します。経験・性別は問いません。

**募集人数** 若干名

応募期限はありません。(随時募集)

応募は、8ページ下段の津市市民部男女共同参画室までお寄せください。

# 男女共同参画社会の実現に向けて

“**男**と**女**が互いに認め合えるステキな関係”

**男女共同参画は身近な問題**

「男女共同参画って、むつかしうやなあ。」

男女共同参画という、そんな返事が返ってくる場合があります。でも、それは難しいことではなく、とても身近な問題なのです。

たとえば

「男なのに、編み物が趣味なの？」

「女の子なんだから、後片づけしなさい。」このように、性別によって、行動などを決めつけてしまうことを、人に言ったことは、ありませんか？ また、人に言われて「変だなあ。」と思ったことはありませんか？



男性でも、女性でも、編み物が好きな人もいれば、得意な人もいます。後片づけ、女の子にも、男の子にも身につけさせたいことです。それなのに、性別で役割や行動を制限したり、されたりすることがあります。

男女共同参画は、難しいことでも、取っつきにくいことでもありませんが、それを阻んでしまう意識は、日常の暮らしの中で、誰もが関わったり、感じたりすることの中に潜んでいるのです。

**男女が認め合い協力し合って**

「今日は、お母さんが残業で遅くなるので、お兄ちゃんとお父さんと私で夕食を作りました。」

「うちのおばあちゃんは、老人会の役員をしています。今は、お祭りの準備で張り切っています。」

僕は、優しくて頼りがいのある介護士になるのが夢です。」

それぞれが、いろんなところでいきいきと充実した毎日を送ることができる、そんな家庭、地域、街、社会になれば、いいですね。

このような、男性も女性も、協力し合っている分野へ積極的に参加し、自分の能力や個性を発揮し、



喜びも責任も分かち合う、男女共同参画社会の実現は、法律・制度の整備や行政の施策だけでできるものではありません。一人ひとりの意識のありようや行動が、実現の鍵を握っています。

知らず知らずのうちに、身に付いた固定観念や意識を変えていくのは、まず、社会の一番小さな単位である、自分の家庭からです。家庭の中で、夫と妻、母と息子、おじいちゃんと孫といった家族が、性別や、立場、年齢に関係なく、助け合い、それぞれができるときに、できることをする、という、当たり前ではあるけれど、とても大切なことをしていく。そんな家族の中で育った子ども達は、きっと大人になっても、男女が認め合い、

協力し合って生きていくことを、自分の家庭で実践し、その輪を地域や職場、そして社会へと広げていってくれることでしょう。

**社会の仕組みを変える**

また、「男女共同参画と少子化問題は車の両輪である。」とも言われており、男女共同参画は、今では女性や人権の問題だけでなく、社会の仕組みを変える大きな流れにもつながっています。

人の女性が一生の間に産むと推定される子どもの数、合計特殊出生率が、昨年の統計で日本は1.25人になりました。今の人口を維持するためには、同出生率が2.1人以上でなければならぬのですが、このままの状態が進むと、60年後には、日本の人口は約半分になるそうです。

少子化が進むと、労働人口の減少から、社会経済が停滞し、経済成長が鈍化します。そして税や社会保障における負担増や、地域社会の活力低下などが起こり、私たちの生活基盤そのものが失われると言っても過言ではありません。

安心して子どもを産み育てられる社会をめざして

少子化の原因はさまざまですが、晩婚化や非婚化によるだけでなく、最近では、結婚はしても子どもをもつことを希望しない男女が増えていることも一因となっています。なぜ、子どもを産むことを希望しないかを既婚女性にアンケートを取ったところ、主な理由に、育児不安や、子どもを出産後に育児や家事負担が大きいことを挙げる方が多く、また、夫が家事や育児に協力的な家庭ほど子どもの数が多いこともわかりました。

子どもを産み育てることに対する不安を取り除くための支援、育児休暇や短時間労働制度などの労働環境の整備も必要ですが、最も身近にいる夫のやさしいたわりの気持ちからの、家事・育児への積極的な協力が、女性にとって、一番うれしくて、必要なことなのですね。

また、夫も育児に関わることで、子どもに対する愛情をさらに感じる事ができ、家族がより層強い絆で結ばれることでしょう。また、そんな夫・父親なら、家族のために生懸命働いて、いざ定年になった途端、「家」に居場所がないというような、悲しいことにはならないでしょう。

さあ、あなたの男女共同参画は、どんなことから始めますか？

## 平成18年度の津市の主な男女共同参画事業

津市では、男女共同参画を推進するため、さまざまな事業を行っています。その推進には、住民の皆さんや事業者の皆さんの、共同参画への「理解」及び「意識の高まり」とともに、「行動」が不可欠です。皆さんの積極的なご参加を、お待ちしております。

**男女共同参画フォーラム**

公募による実行委員のみなさんと津市が協働して男女共同参画の意識啓発、浸透を目的に様々な催しを行います。

また、各種団体・グループの活動展示や活動発表・ワークショップの参加も大歓迎です。

**開催期日** 平成19年1月19日(金)・20日(土)

**開催場所** 津リージョンプラザ  
詳しいことは、決まり次第、広報津や津市のホームページでお知らせします。

**男女共同参画セミナー**

女性の社会参画を考えるきっかけづくりとなるよう「男女共同参画意識」「子育て」「年金等の制度」など身近な問題をテーマに開催しております。

また、セミナー中は託児もいたします。(今年度は、6月～7月に開催しました。)

**女性のための相談**

専門の女性カウンセラーが相談に応じます。相談内容が他の人にわからないように個室で行います。

秘密厳守。無料。要予約。

**相談日時** 毎週火曜日 13:00～18:00 (第5火曜日、祝日、年末年始はお休みです。)

**相談場所** 津センターバレス2階

**相談方法** 面接相談、電話相談

**申し込み**

相談時間中は、TEL059-213-7202  
相談時間以外は、TEL059-229-3103

**女性のための法律相談**

女性の弁護士による法律相談です。相談内容が他の人にわからないように個室で行います。  
津センターバレス2階。秘密厳守。

無料。要予約。相談日・申込方法等は、広報津でお知らせします。

**男女共同参画シリーズ掲載**

市の男女共同参画に関する施策を紹介し、市民の皆さんに知っていただくことを目的に、男女共同参画シリーズとして、広報津に年5回程度掲載します。

**情報紙の発行**

年2回情報紙を発行します。

男女共同参画セミナーは、5回シリーズで本年度は、6月7日から7月8日までリジョンプラザ2階健康教室を会場に開催しました。今回は5回の内1回目(女性起業家)3回目(地域の子育て)5回目(男女共同参画のまとめ)の3回をレポートします。



seminar report

# 男女共同参画 セミナー



赤澤先生

seminar report

<第1回>

テーマ  
「舞台照明家として…女性として…その舞台裏は…?」

講師 有限会社ケイ スタッフ  
取締役 笠井 瑞穂 先生

第1回目のセミナーは、舞台関係の会社を営まれ、ご自身も照明家として活躍されている笠井瑞穂さんが、その思いを熱くお話くださいました。

まず、照明家としては、台本を何回も読み、自分なりのイメージを描き、曲調や衣裳の色も助案して、効果的な照明を選びます。舞台上立つ人が積み重ねてきた努力をどうしたらかなえられるか、また見る人の想像力をどう駆り立てるか、技術と知識のバランスをとり、結集させることで実現させます。舞台関係の業務は、作り上げる舞台の華やかさとは対照的に、危険で重労働、なおかつ地味な仕事です。お客様の要望に的確に答えるためには、技術者が途中で交代しないことが求められるため、拘束時間が長く、また機材を運ぶため、妊娠中の女性は従事できません。



笠井先生

従業員のうち女性は、男性の5分の1位の人数です。しかし、最近は機材の軽量化やコンピュータ制御のおかげで、女性従業員も増えつつあるそうです。笠井さんの会社でも、活躍する女性が多いとのことでした。

しかし、経営者として、また同じ女性として、結婚や出産を機に能力のある女性が退職するのは、非常に惜しいし、残念とのことでした。

また、笠井さんは、5人のお子さんのお母さんという顔も持っていますが、仕事と家事の両立は、「地域や家族の協力があってこそできるのです」とおっしゃいました。子育て期は、親や保育園に子どもを託し、仕事をしていました。親に学校への送迎など、助けてもらって、自分がやりたいことを実現することができ、そのことを素直に感謝されたとのことでした。仕事上でも夫とうまく役割分担をし、夫は演劇部門、自分は音楽部門とパソコン関係を担当し、安全確保のための資格も積極的に取得しています。

夫の家事への協力を上手に引き出すには、もし失敗しても文句を言わないことだと、大変役に立つヒントも教えていただきました。

そして、落ち込んだときは、自分を好きか」と問いかけてみるそう

です。また、受講生に「大切なものを10個上げてください。」とおっしゃいました。大切なものがあるからこそ、つらくてもがんばれるのです。笠井さんの積極的な生き方は、とっても魅力的に感じました。

seminar report

<第3回>

テーマ  
「まちのみんなで子育て」

講師 津市母子保健推進員  
井澤 淑子 先生

家庭の機能は、まず子どものパノナリティの形成であり、子どもを次世代社会の員として育てることにあります。

しかし、日本では23%の母親が子育てを楽しみと思わず、そして、33%の母親が育児困難という調査結果が出ています。

原因としては、核家族化がすすみ、わからないことを教えたり、悩みを聞いてくれたりする人が身近にいないことから、子育てに対して不安感や孤立感を持つ母親が多いとのことでした。



また、子どもと直接接する機会を持たずに親になったため、赤ちゃんを抱っこするのが、自分の子どもで初めて経験するという人が多いのも、接し方がわからない 因かもしません。

このような母親や家庭には、「すべての家族を包み込む」ような支援、ウェルビーイングが必要です。

悩む親に対する支援には、地域子育て支援センター等、次世代支援事業の充実なども実施されてきていますが、行政の支援には、制約があります。

そんな中で、私たちは、どう関わっていけばいいのでしょうか。どんなことができるのでしょうか。

井澤先生は、「子育て中の家庭に対して自分にできることはないかを考えてみましょう。まず、挨拶することから始め、地域で、まちの中で、よその子に、子育て中の人に声をかけてみましょう。」と話されました。

「親」には、「実親」と実親以外の近所の人などを含んだ「社会的親」があります。

子どもは、実親やその家庭の中だけでなく、近所、地域、そして社会で育てていくことが必要であり、その中で実親も学び、助けられて気持ちに余裕が生まれ、「子育て」に楽しみを持てるようになります。そして、子どもも、伸び伸びと健やかに

育っていくのでしょうか。また、この講義は、グループ形式を取り入れていただきましたので、受講生は相互に体験談や考えも知ることができ、とても楽しい受講時間となりました。

seminar report

<第5回>

テーマ  
「あなたらしく わたしらしく  
共に生きる社会とは」

講師 名古屋YWCA  
ウィメンズカウンセラー  
赤澤ヒロ子先生

男女共同参画基本法は平成11年に制定され、翌年男女共同参画基本計画の策定が決定されました。同年三重県でも「三重県男女共同参画推進条例」が制定され、県内ではそれぞれの市で活動がなされています。

まず、「男女共同参画社会とは、性別にかかわらず、個々の個性と能力を生かして生きていける社会である。」とし、法律が整備されているにもかかわらず、それらが実現されていない実態を内閣府「世論調査」や総務省「社会生活基本調査」などを使ってお話されました。

「社会全体における男女の地位の平等感」では、男性のほうが優遇されているとの数字に、法律制定前後で、顕著な変化がないこと、共働き家庭においても家事は妻の役割となっている「性別役割分業」等について説明されました。

性差別を生み出し、男女共同参画社会推進の弊害となっていることの一つの要因に、ジェンダ「文化的

社会的性差」があると指摘されました。それは、人は誕生と同時に「男性」「女性」に分類され、成長と共に「男らしさ」「女らしさ」を文化(言葉、慣習、色)や教育(優先順位、役割等)の場面で無意識に教えられていくとのことでした。次に私たちは自分の内面にある「男らしさ」「女らしさ」の簡単なアンケートを行いました。その結果、受講生の男女とも全員に、一般的に分類される「男らしさ」と「女らしさ」が個々の内に同時に存在していることを確認しました。赤澤先生は「ジェンダは身近な生活における自分の中にある。男らしい、女らしいという枠では、その人自身の個性を捉えることはできず、むしろそのことが個人の個性を失わせている。自分の中のジェンダを見直すことが大切。」とされ、最後に「誰もが自己尊重感を持てる社会であり、自己の特性を生かしていける社会の実現を目指していきましょう。」と締めくくられ、最終講義は有意義な時間のうちに終了しました。

なお 第2回は中島則子三重労働局雇用均等室長から「均等法から20年」第4回は三橋昌男津市社会保険事務所相談室長から「女性と年金」と題して 講義がありました。

男女共同参画セミナーは、今後も実施していきます。

「こんなテーマを取り上げてほしい」「こんな講師を招いてほしい」「こんな地域でも開催してほしい」など ご意見等もお気軽に市男女共同参画室へご連絡ください。



# 「小さい子と触れ合えて楽しい。 …ケド、すごく疲れる。」

8月2日、津市香良洲町にある「放課後児童クラブなかよしキッズ」を訪問しました。香海中学校2年生の男女5名の皆さんが職場体験学習に取り組む様子を見学させていただくためです。夏休みの真っただ中、朝からおじやますると、すでに園庭から元気の子どもの声が。お兄さん先生、お姉さん先生に遊んでもらって、小学生の子どもたちは嬉しそう。中学生の皆さんも、代わる代わるおんぶをせがむ子どもたちに、汗をにじませながらも、男子生徒も女子生徒も、とても楽しそうでした。

## 職場体験学習とは…

香海中学校の豊田真理子教頭先生と担当の波多野慎介先生に、職場体験学習についてうかがいました。

職場体験学習は、「自分発見1中学生・地域ふれあい事業」として市内の中学校で行われています。自分の将来の生き方や進路を模索し始める中学生を対象として、学校・家庭・地域社会が丸となって地域ぐるみで職場体験活動を行うものです。この学習を通じて、生徒の個性を伸ばし、望ましい職業観、生きる力を育むことを目的としています。

本年度、香海中学校では2年生を対象に8月2日から4日の三日間実施しています。放課後児童クラブの他にも、ショッピングセンター、ガソリンスタンド、福祉施設など、く物を作る・売る仕事・サービス・ケアの仕事と、違う業種を生徒が体験できるよう工夫しています。

生徒たちは、協力していただける事業所等から、自分が行きたいところを体験先に選んでいます。教師が特に配慮しなくても、男女にとらわれず希望を出しています。

これは、1年生の時の学習が基礎となっているようです。総合的な学習の時間、津市の女性の消防士の方に学校に来てもらい、1時間話をしてもらいました。また来校はかありませんでしたが、松阪市の男性の幼稚園教諭の方からの聞き取りを元に学習をしました。

社会一般でも言葉として、「保育士」「看護師」が定着してきました。

このようなことから、生徒たちは、職場に対して分け隔てなく、また男女にとらわれることなく、職場体験学習に臨んでいるようです。



職場体験学習についてお話をくださる豊田教頭先生(左)・波多野先生(右)

香海中学校ではこうして、1年生のときに校内での聞き取り学習を、2年生のときに校外での体験学習を経て、3年生で自分自身の進路を決定する、というふうな段階的に、生徒たちに職業学習に取り組ませています。職業学習を通して生徒たちには、職業に希望を持たせたい——と先生たちは語られました。

豊田先生は、今ではこれもあまり珍しくなくなった女性の教頭先生です。「日本女性会議2000津」の際ご活躍なさったそうで、当時のことを懐かしそうに話ってくださいました。



夏休み期間中なので、プールで保育体験を行いました。

## 参加した中学生の声から

Q. この職場・職業(学童保育所・指導員)を選んだわけは?

- ・小さい子と遊ぶのが面白そう。(男子)
- ・自分自身に結果が出たかった。(男子)
- ・小学校の時、居た所なので馴染んでいる。(男子)
- ・第一希望のショッピングセンターが閉鎖だったので、今日だけこちらに来た。(女子)

Q. 実際に来て、体験してみて、指導員という職業の感想は?

- ・小さい子だから楽しくできる。(女子)
- ・楽しいけど疲れる。(女子)
- ・面白い。(女子)
- ・すごく疲れる。特におんぶ。(男子)
- ・楽しい。(男子)
- ・懐かしい。子どもたちの人数が多いので驚いた。(男子)

「学童保育所に限らず、この『疲れる』という体験が大切なのです。」(波多野先生・談)

Q. 職業を選ぶとき、性別って関係あると思いますか?

- ・あまりない。(男子)
- ・いちいち分けなくていい。(男子)
- ・どっちでもできる職業って、多い。(男子)
- ・ないと思う。なりたい職業を選べばよいと思う。(女子)
- ・あると思う。力とかいる仕事は、男の仕事と思う。(女子)



## 小学生の声

楽しい

いつも来て欲しい

ナイショ

嬉しい

## 「男と女、どっちでもできる職業って、多いと思う。」

放課後児童クラブなかよしキッズ指導員・木田さかゆ先生 へ聞く

今日の職場体験学習では、中学生が刺激となって子どもたちが少しでも楽しめるように、また中学生にとっては、お母さんたちが働いていて、その子どもたちがここに来ていることを知ってほしいと願っています。

学童保育は学校とも家庭とも違います。家庭的な安らぎを第一に、プラス、集団としてのルールも学んで欲しいと思っています。

指導員は子どもたちからは先生と呼ばれますが、役割としてはお母さん・お父さんの代わりと考えています。だから私たちに必要なものは、子どもへの愛情であり、子どもたちが安らげる雰囲気を作ることと思っています。

小学校は男の先生もいますが、幼稚園・保育園、そして学童保育所にも男性の指導員は必要です。今日の男子中学生のボール遊びひとつとっても、パワーが違います。子どもたちもすごいという目で見ます。いろいろな大人・指導員がいるのはよいことです。

市町村合併で、津市学童保育連絡協議会の集まりに参加させていただきました。旧津市には男性の指導員さんも何名かみえるのですね。

学童保育の指導員は、一般的にまだまだパート労働の域。指導員の仕事が職業として認められ、賃金面でも安定してくることが、男性の指導員の参入を可能にし、それが、女性

の指導員にとっても、よいことだと思います。

## 取材メモ

生徒たちを見て、中学の時期では子どもの世話をする興味・能力に男女差はないと実感しました。いつか分岐点ものこしよう刀。

それにしても指導員の皆さんの仕事は大変。人数の基準は満たしていても、次から次へとくる子どもたちの要求に、休も暇もないのです。このような多くの女性労働者がきちんとした経済的・社会的評価を得られるようになることが男女共同参画社会への一歩となるのではと思っています。



# ぶらり ライブラリー Library



合併して津市は、市内に11の図書館(室)を持つことになりました。それらを順不同で回り、男女共同参画に関する本、ビデオ等を紹介していきます。

初回は、芸濃図書館。芸濃総合文化センターの中にあります。館内はとても明るく、新しい図書も充実しています。



## 「先輩に聞く、 女性と就職 仕事論」

ドーンセンター/編著  
アルゴ/発行  
2006年  
1300円+税

就活前の女子学生や子育て等を終えて再チャレンジを考えている女性に読んでほしい本です。文中一人の女性の働くことは生活のためはもちろんですが仕事を通して私が生きたあかしを残したいのです。という言葉が光ります。



## 「おとうさんはウルトラマン おとうさんの育自書」

宮西達也/著  
学研/発行  
2005年  
1500円+税

絵本 おとうさんはウルトラマン シリーズで人気の著者が贈るおとうさんのための育自書です。育児体験やアドバイスの他、おとうさんのための育児統計や本サイトの紹介などおなじみのイラストも満載で読みやすい1冊です。

☆市内在住 在勤 在学の方は、どなたでも借りられます。(図書館ごとにカードを作る必要があります。)

☆紹介の本は、市内の他の図書館でも、所蔵していることがあります。

☆お近くの図書館に紹介の本がない時でも、取り寄せてもらって借りの方法があります。

詳しくは、津市図書館のホームページ(<http://www.tosyo.city.tsu.mie.jp/>)または、各図書館の受付窓口にお尋ねください。

## 編集後記

今年5月に三重県に引っ越して来ました。津市民新入生のヒヨツ子ですが、これから津市の様々なことを見聞していきたいと思っていますので よろしくお願いします。

(青木)

新市になって初めての情報紙。旧市で当たり前とやってきたことをもう一度問い返すことから編集作業が始まりました。これって男女共同参画の意識にも通することですね。

佐藤)

新しい津市になって 自分の意識に変化が生じたのか旧津市からは遠方の美杉や 近くの善良洲などの地域の方とも交流したいと思います。次号では、せひみなさんもスタッフに参加してください。

(澤井)

新生泉都「津」の男女共同参画 情報紙として また 味わい、意味合い(特色と魅力)のあるものになりたいと 編集スタッフとして張り切っています。

(西尾)